

1 学校として目指す授業

①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、生徒自らが学ぶ姿勢を取り入れた授業 ②ICT機器の活用及び体験活動などの探究的な学びによって、自ら学ぶ力を育成する授業
--

2 生徒の現状

- (1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校 3 年生）
- (2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析
- (3) その他の資料を活用した分析

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析			活用した資料名及び分析結果
・国語では、全領域で国の平均を上回っており、特に「思考・判断・表現」では8.1ポイント、「問題形式記述式」では11.3ポイントも上回っている。 ・数学においても同様であり、「思考・判断・表現」「問題形式 記述式」で15.9ポイントも上回っている。 ・英語においては「物語を読んで登場人物の気持ちを解答する問題」のみ全国平均を0.1ポイント下回っている。	ICTの活用において、生徒自身がPCを使用プレゼンテーションや情報収集等を行う技能は身に付いているが、それに対して授業内での使用頻度が少ない。課題解決に向けて探究的に学んだり、話し合い活動を通して自らの考えを深めることができている生徒が多い。			学校評価における「ICTの効果的な活用」に関する項目では肯定的な回答は86.5%、「個別最適な学びと協働的な学び」に関する項目では89.2%であった。どちらも令和7年度よりも約3.5ポイント上回っている。今後も継続的な授業改善を行っていく必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・授業での考えをまとめる学習活動では、学び方を考えて工夫したりすることができる。発表に向けての学習活動では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫できるようにする必要がある。 ・話し合い活動では、自分と異なる意見に対して寛容であるが、協働的な学びの中で考えを深めたり、広げたりする方法に課題が残る。
--

4 学校全体の授業改善の視点

「探究学習」「自由進度学習」「ICTの効果的な活用」の3つの視点で授業改善に取り組む。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>学校指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学年	分かりやすい授業や学び合いで基礎力の定着を図るとともに、身に付けた力を活用するような探究活動を多く設定する。		・社会科の技能、判断や表現の力を向上するために基礎・基本の定着を図る。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を活かし、基礎・基本の定着を図る。 ・グループワークを通して、思考・判断・表現する力を養う。		・ICT活用や話し合い活動を通して、観察・実験の基本的な技能の習得を行う。 予想・仮説のプロセスを重視して、規則性や関係性を表現する。		・器楽、創作の学習において、グループ活動を通して表現の工夫ができるようにする。		・個々の学習状況に応じて「知識・技能」では美術用語、印象的な言葉など言語表現を支援し「思考・判断・表現」では対話的活動を通じて能力を養う。		・ICTを活用して、個々の課題の解決に向けて主体的に取り組めるように練習方法を選べるようにする。		・身近な問題から課題を設定し、解決に向けてICT機器を用いて解決方法を調べ、課題解決に向けて作業や製作等を通して周囲と協働的に学習させる。		課題解決の方法を主体的に考えさせ、ICTや協働学習を活用することで、自分に合った学習を、進められるようにする。		・自分の考えをグループ、クラスで発表する場面を設定し、考えを広げたり深めたりする協働的な活動を多く設定する。	
2 学年	・学習目標を明確に示して見通しをもって学びに向かわせるとともに、ICT機器の活用や話し合い活動の充実によって思考力、表現力を養う。		・社会科の技能、判断や表現の力を向上するため発表の学習を取り入れる。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・習熟度別少人数授業を活かし、個別最適化された授業を実践していく。 ・学び合い活動を通して、思考・判断・表現する力を向上させる。		・ICT活用や話し合い活動を通して、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行う。 予想・仮説のプロセスを重視するとともに、結果を分析して仮説の分析を行う。		・ICTを活用して表現活動を客観的に見ることににより、技能の向上を図り、表現の工夫につなげる。		・ICTを活用し、表現や鑑賞の幅を広げる。		・ICTを活用し、生徒の技能に応じて個々の課題の解決に向けて主体的に取り組み、練習方法などを伝えることができるようにする。		・生活や社会の問題から課題を設定し、解決に向けてICT機器を用いて解決方法を調べ、課題解決に向けて作業や製作等を通して周囲と協働的に学習させる。		・自ら計画的に学習に取り組む場面を設定し、ICTの活用をしながら個別最適で協働的な学びを実践することで外国語における基礎学力の定着と思考・判断・表現力の向上をさせる。		・意見交換する場面を必ず設定し、自分の意見を表現すると共に、互いに認め合える機会を意図的に増やす。	
3 学年	・状況に応じて自分の意見を明確に述べられるように、ICT機器を活用しながら協働し、思考を深める活動を多く設定していく。		・社会科の技能、判断や表現の力を向上するため発表の学習を取り入れる。 ・現代社会との関わりを意識した単元の計画を行う。 ・タブレットやレポート等、様々な方法で表現活動を行う。		・個別最適な学びを推進し、知識・技能の活用力を高める。 ・レポート作成や意見交流活動を通して、思考・判断・表現する力を育成する。		・ICT活用や話し合い活動を通して、実験結果や資料を主体的に手法やプロセスを工夫して分析して解釈する。規則性や関係性を見いだして表現することで、探究過程を振り返る。		・ICTを活用して歌唱活動において、意図をもった表現をする能力を高める。		・ICTを活用し、表現や鑑賞の幅を広げる。また、発表までの制作活動の見通しをもち、思考判断する力を養う。		・自己の課題や仲間の課題を見つけ解決するとともに、主体的に知識を広げ、技能を高められるようにする。		・生活や社会の課題を自ら見出し、ICT機器を用いて解決方法を調べ、課題解決に向けて作業や製作等を通して周囲と協働的に学習させる。		・自ら課題や学習方法を選択することで個別最適化された学習を目指し、対話的活動を多く行うことで協働的な学びを通して自己調整を図る力を養う。		・話し合い活動等で表出した様々な考えをICT機器を活用してクラス全体で共有し、考えを深める工夫をする。	